

## ● 地域福祉計画の点検・評価(令和6年度決算)に係る委員意見一覧

## 1. 第4期あまがさき地域福祉計画の点検・評価に関する

委員名	基本目標	展開方向	方向性	意見内容	市の対応等
大岡委員	PDCA全般	—	—	「地域福祉計画」のPDCAについて高齢者の取組が中心に見えてしまうが、障害者や子どもといったことをキーワードとして出していくことにより、色々な人がかわる計画だということを見せられるのではないか。	(4)④その他(委員意見を参考とする) 「地域福祉」に関連する事業や取組は多岐にわたることから、「関連事業一覧(詳細シート)」で各種事業の進捗確認を行い、その中で代表的な事業を抽出して「評価・管理シート」を作成しております。現在のところ、多くの市民が参加する地域活動としては、高齢者支援が代表的なものとなり、これらの取組を主に記載していますが、次期計画のPDCAでは、多様な事業で地域の暮らしを支える取組や支援が維持されているということを分かりやすく示せるよう、検討を行ってまいります。
大岡委員	PDCA全般	—	—	縦割りではなく高齢者、障害者、子どもなどの様々な属性の人が集う場づくりといった取り組みを尼崎市ではどのように試みているのか。	(3)既に取組済み 地区学びと活動推進事業では、各地域の生涯学習プラザにおいて、「防災」や「子育て」など地域の方々にとって関心が高く身近なテーマでプラットフォームの開催やイベント、講座等を実施し、参加者を拡大させるために実施日時を工夫するなどの取組を行っているところです。また、自発的活動支援事業では、障害者等やその家族、地域住民等による自発的活動に対して、その費用を助成するなど、各分野において、様々な属性の人が集う場づくりの取り組みを行っております。
木下委員	PDCA全般	—	—	各種目標数値について、達成できているものもあれば、達成される見込みのないものもあることから、時点修正が必要ではないか。	(4)④その他(委員意見を参考とする) 目標数値につきましては、5年間の計画期間における評価・検証を踏まえ、計画改定時に改めて見直す考えとしております。ご指摘のとおり、各種数値目標につきましては、次期計画改定に向けて、アンケート調査結果の分析や事業の効果検証等を行い、時点修正や目標変更等を行ってまいります。
高尾委員	PDCA全般	—	—	障害者に関する事業の記載が少ないのではないか。	(4)④その他(委員意見を参考とする) 障害者に関する取組につきましては、「評価・管理シート」では基本目標に関連する代表的な事業を抽出して作成しているため、具体的な事業としては掲載しておりませんが、「関連事業一覧(詳細シート)」に地域福祉に関連する取組内容を掲載しております。次期計画のPDCAでは、多様な事業を記載し、分かりやすく示せるよう、検討を行ってまいります。
荻田委員	1 「ささえあい」を育む人づくり	① 福祉学習の推進	(1)	支えあいを育む人づくり事業・地域福祉推進事業・地域福祉ネットワーク会議の進捗状況報告や、地域福祉活動専門員の活動報告の中には、例えば、子どものための事業ではなくても、その事業の中で子どもやマイノリティの方が活躍している取組が多くある。これらの取組を市民に分かりやすく共有できるような方法やツールがあればよいのではないか。	(1)「委員意見」欄へ掲載する (2)既存の取組の中で検討等を行う 地域福祉に関する各事業の広報につきましては、現在のところ、各事業所管課において実施しております。子どもやマイノリティの方が活躍している取組など、地域福祉計画の推進に関する広報につきましては、今後、計画所管課において、市ホームページに掲載するなど、分かりやすく多くの方に周知できるよう、検討を行ってまいります。
木下委員	1 「ささえあい」を育む人づくり	① 福祉学習の推進	(1)	関西国際大学や小田高校等の市内の大学や高校が地域福祉に携わっていただいていることについて、評価すべきである。	(1)「委員意見」欄へ掲載する
山本委員	1 「ささえあい」を育む人づくり	② 地域福祉活動の担い手の発掘・育成・支援	(1)	福祉人材の担い手の育成について、高校・大学生の取組はあるが、小・中学生はどうか。	(4)④その他 「支えあいを育む人づくり支援事業」では、高校・大学生等に対して、地域活動へ参画することの大切さを伝えることを目的に活動支援を行っていますが、小・中学生での担い手の育成としては、こうした取組を通じて、高校・大学生が小学校で出前授業を実施し、学びと活動の好循環が生まれているところです。また、ボランティアセンターでは、ボランティア部のある中学校との共催により、小学生がボランティア活動に参加するきっかけとなる講座・イベントの実施や聴覚障害のある方が子どもたちに工作を教える講座の実施など、小・中学生を対象とした取組も実施しております。
松原委員	1 「ささえあい」を育む人づくり	② 地域福祉活動の担い手の発掘・育成・支援	(1)	ポストコロナ期のささえあい地域活動支援センター「むすぶ」とボランティアセンターのマッチング数の顕著な増加について、評価すべきである。	(1)「委員意見」欄へ掲載する ささえあい地域活動支援センター「むすぶ」とボランティアセンターでは、さまざまな団体と連携しながら多様な講座の実施や、SNS等を活用した積極的な情報発信に継続して取り組まれたことで、ボランティア活動に新たに参加される市民や活動の担い手として継続的に関わる方が着実に増え、目標数値と比較し、大きく達成されたことから、ポストコロナ期の取組における成果と考えております。
山本委員	1 「ささえあい」を育む人づくり	② 地域福祉活動の担い手の発掘・育成・支援	—	見守り活動を行った学生の感想を見ると、見守り対象の高齢者から感謝されたことが、自己肯定感・有用感や生きがいが高まることにつながっていることから、支え手・受け手の一方的な関係ではなく、双方が支えられていることを表現できればよいのではないか。	(4)①その他(評価・管理シートの修正を行う) 委員ご指摘のとおり、当該取組では、「支え手・受け手」という固定された役割を超えて、双方が支え合う関係性を重視しており、PDCAにおいてその関係性を表記することに意義があると考えていることから、「支え合いの大切さ」を「互いに学び合い・支え合うつながりの大切さ」に変更し、見守り活動の本質をより正確に伝えていきます。
山本委員	1 「ささえあい」を育む人づくり	② 地域福祉活動の担い手の発掘・育成・支援	—	福祉サービスの担い手として外国籍の若い人に、尼崎市に住んでみたいとか尼崎市の施設で働いてみたいと思われるような支援体制ができればよいのではないか。	(4)④その他(委員意見を参考とする) 委員ご指摘の福祉サービスの担い手確保における魅力発信の取組につきましては、今年度実施する次期高齢者保健福祉計画策定の基礎資料とする福祉サービスの担い手確保に向けたアンケート調査結果や事業所・関係団体等への聞き取りにより、事業所の運営現状や外国人労働者の受入状況等を把握する中で、検討を行ってまいります。
松原委員	2 多様な主体の参画と協働による地域づくり	① 地域を支えるネットワークづくり	—	尼崎市社会福祉協議会の地域福祉活動専門員(生活支援コーディネーター兼務)によるネットワーク化の成果がでており、尼崎市社会福祉協議会の福祉行政への貢献が見受けられる。	(4)④その他

委員名	基本目標	展開方向	方向性	意見内容	市の対応等	
荻田委員	2 多様な主体の参画と協働による地域づくり	② 地域の見守り・ささえあいの充実	(1)	高齢者等見守り安心事業について、目標値を100%としていることは理解できるが、それぞれの地域の事情がある中で、特に訪問型の見守りとなると現実的には難しいと考えられる。今すぐにといいことではないが、地域の居場所や、さりげない声掛けなど、高齢者に限定しない、また現行の型にとられない多様な見守り活動を市として評価・促進していく視点も重要ではないか。	(1)「委員意見」欄へ掲載する	当該目標値につきましては、現計画において、高い目標に可能な限り近づけること目的に設定していることから、次期計画では、他の目標値との整合性や目標値の変更等を含め、改めて検討を行ってまいります。また、高齢者等見守り安心事業につきましては、現在、高齢者に限定せず、障害者等の見守り希望者に対しても支援対象者として見守りに取り組むとともに、民間事業者の高齢者等見守り活動につきましては、当該事業の中で、地域福祉の推進に関する協定や高齢者等見守り安心事業協力事業者登録制度により、ご協力をいただくなど、高齢者に対する訪問型の見守りに限定せず、多様な見守り活動を実施しております。
松原委員	2 多様な主体の参画と協働による地域づくり	② 地域の見守り・ささえあいの充実	(1)	見守り活動について、活動地域数が増えていることを課題とするよりも、永年にわたり活動を維持している地域を評価する必要があるのではないかと。	(1)「委員意見」欄へ掲載する	高齢者等見守り安心事業につきましては、委託事業として、新規地区の立ち上げ支援だけでなく、継続地区の運営支援を含め、実施するとともに、目標値を全ての連携圏域として取組を進め、継続している地区を含めた実施地区数で事業の評価を行っていることから、新規立ち上げ地区だけではなく、継続して活動している地区についても高く評価しております。
阿部委員	2 多様な主体の参画と協働による地域づくり	② 地域の見守り・ささえあいの充実	(1)	高齢者等の見守りについて小田高校と連携した取組などがあるが、武庫地区においても武庫之荘総合高校に投げかけをしているところである。見守られる高齢者は、学生など若い世代が来るとても元気になるので、民生児童委員だけでなく地域全体で見守り活動ができるようにして欲しい。	(1)「委員意見」欄へ掲載する	
伊藤委員	3 誰もが安心できる暮らしを支える基盤づくり	① 包括的・総合的な相談支援の充実	(1)	ヤングケアラー支援について今後どのように取り組んでいくのか。また、「包括的・総合的な相談支援の充実」として評価シートにも記載すべきではないか。	(4)①その他(評価・管理シートの修正を行う)	ヤングケアラーに対する支援策としては、支援が必要な家庭に訪問支援員を派遣し、子どもの家事負担の軽減を図るとともに、早期発見・支援へつなげるため、当事者同士が悩みや不安を共有し、語り合う機会や悩み相談ができる居場所の設置等を行っているところです。また、令和6年6月の子ども・若者育成支援推進法の改正に伴い、令和7年度は市立小・中学校に在籍する小学4年生から中学3年生及び高校生世代の子ども・若者を対象としたアンケート調査を行い、アンケート結果に応じて、必要な支援について個別に協議・検討・対応を行っていく予定としております。このような取組状況を踏まえ、評価・管理シートの「包括的・総合的な相談支援の充実」に事業内容を追記します。
松原委員	3 誰もが安心できる暮らしを支える基盤づくり	① 包括的・総合的な相談支援の充実	(1)	重層的支援推進事業の実施により、支援困難なケースへの対応が充実してきていることを評価すべきである。	(1)「委員意見」欄へ掲載する	目標値につきましては、現計画において、支援関係者による円滑な支援体制の構築が必要であることから「支援会議におけるケース検討数」を設定しております。一方、複雑・複合化したケースへの対応につきましては、令和7年度からコミュニティファームにおける居場所づくり事業や尼崎市医療・介護連携支援センター「あまつなぎ」の多世代対応など、支援に向けたメニューを立ち上げるなど、支援の充実を図っているところです。委員ご指摘の事業評価につきましては、これらの状況を踏まえ、次期計画の策定において、目標値を含め、検討を行ってまいります。
伊藤委員	3 誰もが安心できる暮らしを支える基盤づくり	② 権利擁護の推進	(2)	パートナーシップ、ファミリーシップ宣誓制度は先駆的な取組として評価するが、性的マイノリティの方へのハード面(だれでもトイレ等)での成果はないか。	(4)③その他(関連計画の中で取組中である)	トランスジェンダーの方の中には、外出時にトイレを利用する際、周囲の視線や注意、指摘などが気になり、どちらの性別のトイレを選ぶかについて、ストレスを感じる人もいることから、性別に関係なく安心して利用できるトイレの整備が求められています。そのため、公共施設の多目的トイレにつきましては、副市長通達(令和2年4月15日付)により、可能な限り男女共用トイレの整備(表示)に努めていただくよう、各所属へ協力を依頼しており、性の多様性への理解を深めるサポートブック<職員用>においても掲載することで、配慮を促しているところです。また、公共施設の新築や建て替えの際に、トイレのあり方について関係所管課から相談を受けた場合や意向を伝える場合には、性的マイノリティの方にも利用しやすい環境となるよう、これまで関係団体から聞き取った意見を踏まえ、助言や意見を行っております。
大岡委員	3 誰もが安心できる暮らしを支える基盤づくり	① 包括的・総合的な相談支援の充実	(2)	「不登校対策事業」について、尼崎市においては学びの多様化学校に関する取組が本計画期間で大きく前進していると思うので、そのことについて尼崎市の強みとして記載してはどうか。	(4)④その他(委員意見を参考とする)	本市では、誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策・支援の一つとして、多様性を尊重する学びの場を整備するため、『尼崎市における学びの多様化学校設置基本方針』を令和6年5月に策定し、兵庫県下の公立学校では初めてとなる学校型(本校型)の「学びの多様化学校」を令和8年4月に開校することを目指し、取組を進めています。この取組では、令和6・7年度に「学びの多様化学校設置準備事業」として施策展開しており、「不登校対策事業」に記載していないところですが、ご指摘のとおり、「学びの多様化学校」は本市の不登校対策・支援における新たな強みになるものと考えており、今後においても、子どもセンターの視点に立った学校づくりを進め、不登校対策・支援の充実に努めてまいります。なお、「学びの多様化学校設置準備事業」につきましては、「尼崎市教育振興基本計画」・「尼崎市子ども・若者総合計画」において、「学校教育」「子ども・子育て支援」の分野で評価・管理を行っており、現行の「地域福祉計画」では、各施策の代表的な取組を中心に抽出していることから、当該事業を記載していませんが、次期計画の策定に向けて、記載等の検討を進めてまいります。
木下委員	3 誰もが安心できる暮らしを支える基盤づくり	① 包括的・総合的な相談支援の充実	(2)	「⑥障害者就労支援事業」で障害者の就労の成果が記載されているが、最近の物価高や最低賃金の高騰を受けて就労継続支援A型の支援が大きく後退している。包括的な相談支援の中で、賃金が下がったとか働く場所がなくなったといった相談はなかったのか、もしなかったとしたらA型がなければB型でといった状態に落ち着いている可能性もあることから、障害者の就労が伸びているのかどうか調べる必要があるのではないかと。	(4)④その他	就労継続支援A型事業所数の減少につきましては、国における事業所運営適正実施の中で減少しているという側面もあり、市の政策での事業継続への対応は困難と考えますが、その利用者の受け皿となる事業所の確保等の相談などにつきましては、委託相談支援事業所等と連携を図り、丁寧に対応していきたいと考えています。なお、本市の状況で申し上げますと、令和7年11月時点では市内の事業所数としては大きな変動はございません。
木下委員	3 誰もが安心できる暮らしを支える基盤づくり	① 包括的・総合的な相談支援の充実	(2)	就労選択支援事業について、令和7年10月から特別支援学校を卒業した人は必ず受ける必要があるが、尼崎市では受託事業者がないという課題がある。その現状はどうか。	(4)④その他	令和7年10月の時点におきましては、指定事業所はありませんが、令和7年11月1日に1事業所が開設しております。引き続き、関係機関等と協議を進めながら、事業所の確保等に努めます。
松原委員	3 誰もが安心できる暮らしを支える基盤づくり	① 包括的・総合的な相談支援の充実	(3)	「重層的支援推進事業」については、福祉・教育・医療・就労など多分野にわたる調整や連携の先陣となるよう取組を進めてほしい。	(1)「委員意見」欄へ掲載する	

委員名	基本目標	展開方向	方向性	意見内容	市の対応等
松原委員	3 誰もが安心して暮らしている基盤づくり	④ 要配慮者(災害時要援護者)支援の推進	—	災害時要援護者支援事業を始めとして、今後は、庁内外での個別支援において、より一層のICTの活用が望まれる。	(1)「委員意見」欄へ掲載する  災害時要援護者支援事業におきましては、避難行動要支援者名簿や個別避難計画の情報管理・共有に関して、庁内の関係課に要支援者システムのクライアントを設置するなど、ICTの活用を進めております。一方、庁外との情報連携におきましては、情報セキュリティにおける技術的・制度的な課題があることから、速やかな対応が困難となっておりますが、引き続き、ICTの活用について、検討を進めてまいります。
松原委員	3 誰もが安心して暮らしている基盤づくり	⑤ 安全・安心に暮らす取組の推進	(1) (2)	生活困窮者などの居住支援や高齢者等に対する特殊詐欺対策等は、安全・安心に地域での生活が継続できるよう取組を更に進めていく必要がある。	(1)「委員意見」欄へ掲載する

## 2. その他の意見等

委員名	意見内容	市の対応等
大岡委員	「『第4期あまがさき地域福祉計画』と国が示す『市町村地域福祉計画の策定ガイドライン』について」(令和7年8月22日開催 第1回地域福祉専門分科会 資料2(別紙))において、国が示す市町村地域福祉計画の策定ガイドラインで例示されている項目については、現行計画での関連施策が記載されていない項目も含め、今後検討していくという考えでよいか。	策定ガイドラインで例示されている項目につきましては、本市における取組の必要性の有無や実施の可否等を踏まえ、現計画に全てを反映していませんが、今後、ガイドラインで例示される項目を含め、次期計画の策定において、改めて項目の記載について、検討を進めてまいります。

(1) 「委員意見」欄へ掲載する	評価・管理シートの「委員の意見」欄に掲載するとともに、次年度以降、取組や検討の進捗状況を確認するもの
(2) 既存の取組の中で検討等を行う	既に評価・管理シートに記載済みの取組等の中で、委員意見を考慮して、今後の検討や取組を進めるもの
(3) 既に取組済み	既に取組等を実施しているもの
(4) その他	① 委員意見をもとに評価・管理シートの本文を修正したもの(修正箇所は、評価・管理シートの下線部分)
	② 委員からの資料の要求等があったもの
	③ 関連計画の中で取組中であるもの
	④ その他、上記以外の内容のもの